

株式市場における物色動向に変化がみられる

2025年11月から2026年2月にかけて、米国の超大型ハイテク企業7社で構成されるM7(マグニフィセント・セブン)*指数は、大規模なAI(人工知能)関連投資の収益化に関する投資家の不安などを背景に、上値の重い展開となりました(図1)。また、同期間には、AIによる業務代替への懸念などから、ソフトウェア関連銘柄などが売られたほか、セクター別では、近年、株価上昇が顕著だった情報技術セクターのパフォーマンスが相対的に低調となりました。その一方で、素材やエネルギーを中心に幅広いセクターへの物色が確認され、投資家の注目分野に変化が生じたと考えられます(図2)。

*米国株式市場を代表する超大型ハイテク企業7社(アップル、アマゾン・トットコム、アルファベット、マイクロソフト、メタ・プラットフォームズ)の総称。

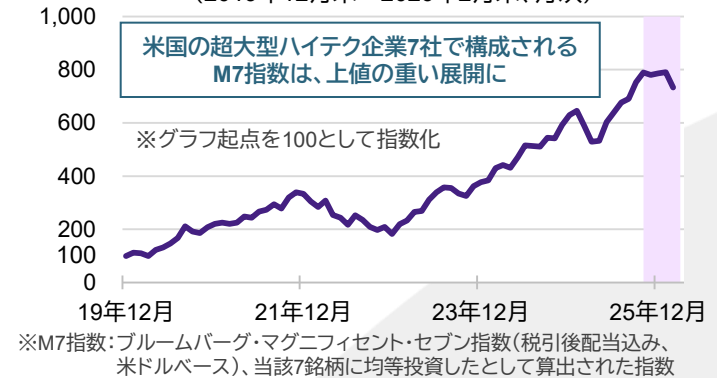
小型株式やバリュー株式にも投資家の関心が広がる

また、これまで相対的に出遅れていた小型株式やバリュー株式にも投資家の関心が広がったとみられ、同

期間には、大型株式やグロース株式を上回るパフォーマンスとなりました(図3、4)。このように、2025年11月～2026年2月の世界の株式市場では、これまで投資資金が集中してきた成長期待の高い一部の銘柄から、より幅広い銘柄に投資を分散させる動きがみられ、こうした変化が今後も継続するか、注目されます。

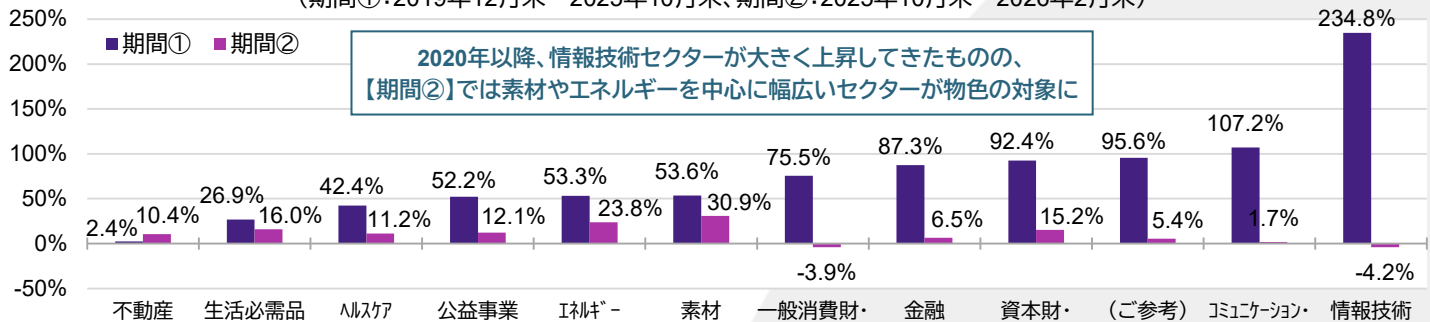
【図1】M7(マグニフィセント・セブン)指数の推移

(2019年12月末～2026年2月末、月次)



【図2】世界株式における各セクターの期間別騰落率

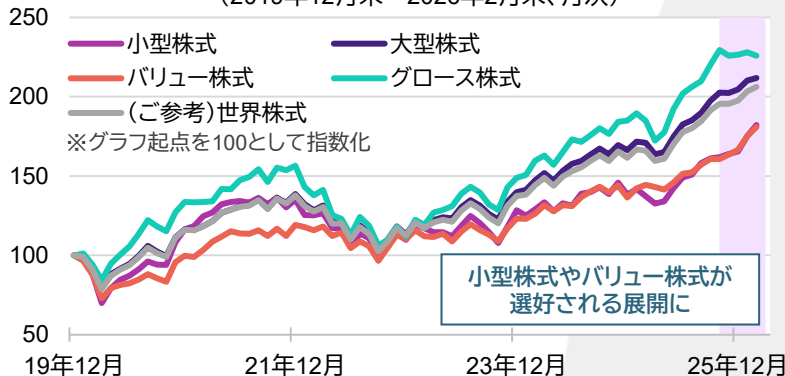
(期間①: 2019年12月末～2025年10月末、期間②: 2025年10月末～2026年2月末)



※世界株式: MSCI ACワールド指数、各セクターはMSCI ACワールド指数の各セクター指数を使用して算出(いずれも税引後配当込み、米ドルベース)。

【図3】世界の小型・大型・バリュー・グロース各株式の推移

(2019年12月末～2026年2月末、月次)



※小型株式: MSCI ACワールド スモールキャップ指数、大型株式: MSCI ACワールド ラージキャップ指数、バリュー株式: MSCI ACワールド バリュー指数、グロース株式: MSCI ACワールド グロース指数、世界株式: MSCI ACワールド指数(いずれも税引後配当込み、米ドルベース)

※記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

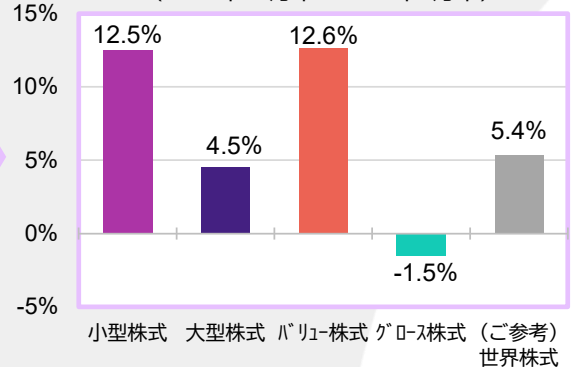
※上記指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

信頼できると判断した情報をもとにアモヴァ・アセットマネジメントが作成

●上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

【図4】期間別騰落率

(2025年10月末～2026年2月末)



2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産)には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

＜ご留意いただきたい点＞

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込むなどのリスクがあります。■リスク性商品中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行本支店等の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会